

福島県 中学校長会 広報

・会長「就任の挨拶」……………	1
・令和2年度第70回福島県中学校長会総会…	2
・組織及び役員一覧……………	2
・学校教育の今日的課題 「離れて、つながる ～コロナ禍の学校運営と連携～」…	3
・令和2年度中学校長会の活動と運営…	4～6
・第71回全日本中学校長会web総会報告…	6
・支会情報と特色ある経営 (福島・石川・南会津・双葉)……………	7～10
・新会員紹介 新入会員の声……………	11
・随想「規矩作法 守り尽くして破るとも離るとも本を忘るな」…	12



就任の挨拶

福島県中学校長会長 佐藤 晃
(福島市立福島第四中学校)

昨年度に引き続き、福島県中学校長会会長を拝命いたしました。皆様のご支えとご協力をいただきながら務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

はじめに、本年3月末をもってご勇退された校長先生方のご功績に敬意を表しますとともに、長年にわたるご指導に対しまして、心より感謝を申し上げます。

特に昨年度は、東北地区中学校長会研究協議会秋田大会、全日本中学校長会研究協議会群馬大会への参加協力等いただきました。また、各専門部会の活動等を各支会の中心となって積極的に推進いただき、多くの成果をあげることができました。今後とも大所高所よりご指導とご助言を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年度末より新型コロナウイルス感染症が猛威を奮い、その対策として、学校が全国一斉に臨時休業となりました。新年度を迎え、始業式、入学式は実施できましたが、感染が全国に拡大し、国の緊急事態宣言が発令され、学校は、再び臨時休業となりました。このため、本会の活動計画も変更を余儀なくされ、4月15日に開催を予定していた福島県小・中学校長会合同開会式は中止し、第71回総会及び第1回理事会、加えて6月19日の第2回理事会を书面開催としました。また、東北地区中学校長会研究協議会青森大会及び、全日本中学校長会研究協議会和歌山大会が中止となり、さらに、10月9日開催に向け準備を進めてきた福島県中学校長会研究協議会会津大会を中止することにしました。誠に残念なことであります。

一方、再開した学校では、感染予防対策の徹底を図り、生徒や教職員の健康・安全を守ること、学校が協働的な学びの場として、失われた時間の

学びを保障することが最重要課題となっています。

また、新学習指導要領の円滑な実施や、いじめ、不登校、虐待、SNSに係る問題等への対応、学校における働き方改革など教育課題は山積しています。

さらに、本県においては、東日本大震災及び原子力発電所事故から9年が経過し、今年度末には、復興・創生期間が終了します。しかしながら、未だ福島県内外に避難している18歳以下の子どもの数は、8千7百人を超えています。加えて、再開後も続く児童生徒数の小規模環境や、廃炉に伴う様々な問題など多くの課題が残されています。

このような中、本会の運営に当たっては、様々な状況下にある各学校の実態を踏まえ、「教育活動の正常化と当面する諸課題の解決」という基本方針の基に、各専門部会を中心に年間の活動計画を立て、活動目標と内容に則り、次の4つの観点を重視して活動を展開します。

- 1 校長会は、校長自らの見識・資質等を高める研修の場であることを踏まえ、その成果等の効果的な活用（教育行政への提言等）を推進する
- 2 全日中教育ビジョン「学校からの教育改革」を踏まえ、教育改革の推進に努める
- 3 教職員としての誇りと使命感をもち、不祥事の絶無に努める
- 4 教育諸条件の整備・充実と教職員の処遇改善に努める

今後、校長は「学校は復興のシンボルであり、復興の活力源である」ことを改めて肝に銘じるとともに、各支会との連携・協働により、会員の総力を結集させ、この難局を打開し、生徒一人一人に「社会を生き抜く力」と「よりよい社会を形成する力」を育む中学校教育を力強く推進しましょう。

おわりに、関係各位のご理解とご支援・ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。就任のあいさつといたします。

令和2年度 第70回福島県中学校長会総会

令和2年度第70回福島県中学校長会総会は、当初4月15日に規模を縮小しての開催を予定していましたが、しかし、本県における感染者の数の増加に伴い、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、各地区から福島市に参集して開催することは控えるべきとの判断により、「第1回理事会」及び「総会」は紙面による確認・承認という形で行うこととなりました。議案は下記のとおりです。

第1号議案「令和元年度福島県中学校長会会務・事業に関する件」

第2号議案「令和元年度福島県中学校長会会計決算の承認に関する件」

第3号議案「令和2年度福島県中学校長会役員選出に関する件」

第4号議案「令和2年度福島県中学校長会事業計画に関する件」

第5号議案「福島県中学校長会会計予算に関する件」

第6号議案「令和2年度東北地区中学校長会役員候補者（福島県選出）に関する件」

紙面議決に際しては、代議員27名から各支会長への委任状を提出し、その後15支会長を含む18名の理事による紙面決議を行いました。その結果全18名の理事から各議案の承認を受け、議案はすべて原案通り議決されました。

例年は総会后に小・中合同開会式が実施され、福島県教育委員会教育長様や福島県市町村教育委員会連絡協議会長様などからご祝辞をいただき、昨年度で退会された役員の方の代表より挨拶をいただいていたのですが、残念ながら中止となりました。

今年度はこのような状況下での本会のスタートとはなりませんが、会員216名がひとつのチームとなり、本県の中学校教育発展のために、新しい体制でスタートすることができました。

新型コロナウイルス対策で各支会、各学校がいまだかつてない状況下での学校再開となりましたが、今こそ会員の英知を出し合い困難な状況を打開していくことが肝要であり、新しい生活様式のもと子どもたちの健やかな成長を支えていくために本会の活動がよりいっそう重要となると思います。

令和2年度 組織及び役員一覧

※ 理事が2名いる支会（福島・郡山・いわき）の会長：○印
※ 常任理事：○印

役職名	氏名	勤務校	
会長	佐藤 晃	福島四	
副会長	行財政	土田 宏	福島二
	研究	佐藤 忠一	若松五
	進路指導	橋谷田 聡	小名浜一
	生徒指導	内田 恒一	郡山三
監事		柳 沼 久 裕	緑ヶ丘
		坂 口 伸	塩 川
		佐 藤 武	葛 尾
理 事	福 島	○土田 宏	福島二
	福 島	佐藤 晃	福島四
	伊 達	岡崎 秀一	伊 達
	安 達	○渡邊 健順	安 達
	郡 山	○内田 恒一	郡山三
	郡 山	原 真 児	郡山二
	岩 瀬	薄 井 英 一	須賀川二
	石 川	塩 田 正 信	石 川
	田 村	堂 山 昭 夫	三 春
	東西しらかわ	○大竹 宏之	白河中央
	北 会 津	佐藤 忠一	若松五
	耶 麻	五十嵐 正彦	西会津
	両 沼	○岩 澤 一 徳	高 田
	南 会 津	我 妻 雄比古	田 島
相 馬	○伊藤 浩樹	原 町 一	
双 葉	早 川 良 一	檜 葉	
い わ き	○橋谷田 聡	小名浜一	
い わ き	森 義 彦	勿 来 一	

【事務局】

事 務 局	事務局 長	佐藤 浩 哉	福 島 一
	行財政部 会長	大 越 一 也	野 田
	研究部 会長	目 黒 満	飯 野
	進路指導部 会長	阿 部 孝 寿	松 陵
	生徒指導部 会長	渡 辺 康 弘	清 水
	広報部 会長	佐 藤 成 紀	福島養護
	庶 務	渡 部 光 毅	福 島 三
	会 計	芳賀沼 彰	北 信

学校教育の今日的課題



離れて、つながる ～コロナ禍の学校運営と連携～

福島県中学校長会副会長 内田 恒一
(郡山市立郡山第三中学校)

「令和」という新しい時代の幕開けから、1年足らず、誰が今の状況を予測できたでしょうか。

6月1日現在感染者ゼロが続き、緊急事態宣言解除の前後から段階的に分散登校・短縮授業を経て通常授業が始まりました。学校再開にあたり、衛生管理マニュアルを参考に新型コロナウイルスの感染拡大リスクを可能な限り低減することと、生徒一人一人に一定程度の教育を担保していくことが求められました。感染状況次第では、再び休業等も想定され、オンライン授業や家庭学習用の教材整備等、予算措置も含めてスピード感のある行政支援が必要です。一方、コロナ対策が長期化し、心身の健康面への対応も重要性を増しています。次年度に向け、学習指導要領の円滑な実施と働き方改革の環境整備も重要です。これらの課題に対し、今後の学校運営を考えてみたいと思います。

1 新しい生活様式への円滑な移行

各学校では、どのように感染防止対策を進めているでしょうか。日課表や授業・行事、部活動等を3密回避の観点から見直すなど、試行錯誤の毎日ではないかと推察します。市町村には、消毒液等の安定的な配当、教室等環境整備の充実や教職員等の確保を働きかけていきたいものです。

長期にわたった臨時休業の影響は、基本的な生活習慣の乱れ、学習面や友人関係の不安、不登校やネット依存、虐待など多岐にわたり、校内外のリソースを有効に活用し、心情に寄り添った、組織的なかわりの重要性を強く感じています。

また、家庭や地域と連携し、様々な生活場面を通して自分も相手も大切にしたい距離感を意識し、進んで新しい生活様式を実践する生徒を育てていくことも重要ではないかと考えています。

そのためには、教職員が健康で明るく、元気に生徒と向き合えるよう職場環境を整えていくことが必要であり、働き方改革の視点とメンタルヘル

スの充実が鍵になると考えます。

2 学びの保障とICT化の推進

感染防止を重視しつつ、協働的な学び合いや学校ならではの学びを保障するには、時数の確保や行事等の再編が不可欠です。中体連や修学旅行、夏休みの短縮や評定・学期制、中学3年生の進路・入試に係る問題など当面する課題には、市町村教委と連携を密にし、見通しをもって取り組んでいく必要があります。授業に関しては、感染リスクが高い活動をリストアップするなど、細心の注意を払って実践(又は入れ替え)していることと思います。「主体的・対話的で深い学び」は今年度は難しいと思われがちですが、このようなときだからこそ、発問や板書をはじめ、ICT活用など生徒の主体的な学びを促す工夫に焦点をあてた校内研修は大事かと考えます。新採用がいる学校は、初任研と連動させた研修会の設定により、授業を見直す、よい機会になるのではないのでしょうか。

一方、ICT環境整備は待ったなしの状況です。最近、各地でGIGAスクール構想に関連した補正予算等の記事を見かけるようになりました。私の地区でも、タブレット端末を全生徒に配当する計画が進行中です。この機を逃さず、出前方式の教員研修を導入することなど研修センターにお願いしています。ただ、この課題は市町村間の格差も危惧されます。県内どこでも等しく活用の機会が得られるよう推進する必要を感じています。

3 離れて、つながる校長会

私の支部では、クラウド型授業支援アプリ「ロイノート・スクール」による情報交換と課題の共有を始めました。時間短縮による事務の効率化と連携の深まりを実感しています。先行き不透明な中ですが、限られた条件の下、持続可能な教育活動の創造と、令和を担う生徒の育成のため、英知を結集し、この難局を乗り越えていきましょう。

令和2年度

「県中学校長会の活動と運営」

福島県中学校長会事務局長 佐藤 浩哉
(福島市立福島第一中学校)

来年度から、新学習指導要領が全面実施となることから、今年度は、「社会に開かれた教育課程」及び「主体的・対話的で深い学び」の実現、さらには「カリキュラム・マネジメント」の確立のために大変重要な期間です。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業期間が長期化したことにより、各中学校においては、昨年度末から、国、県そして市町村からの通知やマニュアルに従ってその対応に追われています。この間、生徒の健康状態や学習状況の把握に努めるとともに、手洗い、マスク着用、三密回避などの新しい生活様式についても継続的に指導しているところです。

今後、公立学校として学力の保障のために、授業内容を効果的に指導するための工夫が今まで以上に求められ、注目されることとなります。さらに、学校行事の実施について、厳しい判断をしなければならない場合も想定しなければなりません。また、生徒の大きな目標であった運動部各種大会や音楽関係コンクール等の中止も決定され、目標を失い精神的な喪失感を抱いている生徒の心のケアも重要になっており、丁寧な対応が望まれています。

本県中学校長会の活動においても、今年度4月に予定されていた県小中合同開会式は中止となり、第1回の理事会・第70回福島県中学校長会総会は紙面開催となりました。5月に予定されていた合同幹事会や各部会長会は中止となり、6月の第1回県小・中学校長会合同理事会、第2回小・中別理事会も紙面開催となるなど、多大な影響を受けています。5月20日の全日中理事会、21日の第71回全日中総会は書面議決及びwebによる開催となりました。総会では、この5月に策定された「全日中新教育ビジョン 学校からの教育改革」が提示されるとともに、本年度の活動方針が承認されました。また、10月開催予定となっていた全日本中学校長会研究協議会和歌山大会は、中止と決議されました。

第48回福島県中学校長会研究協議会については、会津大会が計画され、会津地区では開催に向け実行委員会を立ち上げ、準備を進めていたおりましたが、残念ながら開催できません。本

年度も各支会での研究協議会となります。現状を踏まえた実践研究を進めるとともに、教育課程編成・実施上の諸課題を把握し、対応記録を残すことも、校長としての学校経営力の向上に資すると期待しています。さらに全日本中学校長会の研究主題「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」を受け、8つの小主題を各支会で分担し、実践研究の成果を研究集録としてまとめ、校長としての資質の向上と学校経営の改善にいかしていきます。

県中学校長会では、新型コロナウイルス感染防止を常に意識しながら進めることになる教育活動を今までにない発想と工夫により推進できるように、情報の共有化を図るとともに、各部会の活動を臨機応変に、力強く進めます。

生徒の未来のために「全日中教育ビジョン 学校からの教育改革」の理念と「確かな学力」「道徳教育」「働き方改革」などの10の提言を受け、会員の英知を結集して本県中学校教育の更なる充実・発展を目指し、活動を推進していきましょう。

私たち、震災を経験した福島県の中学校長は、様々な課題に、危機意識を高く対応してきました。これからも「学校は、復興のシンボルであり、復興の活力源である」ことを肝に銘じ、福島の未来の担い手である生徒に人間尊重の精神を基盤としながら、様々な困難に直面してもたくましく臨機応変に行動できる「社会を生き抜く力」と「よりよい社会を形成する力」を育む教育を推進して、県民の信頼と期待に応えるため、学校経営の充実に努めなければなりません。

本年度も各部会での活動や各種調査等を通して本県教育の充実・振興に向けた課題をより明確にし、教育行政をはじめ各種団体、関係機関等への要望活動やさまざまな働きかけを行います。

このような活動の効果を上げるためにも、今後とも、本会員相互の連携強化を図るとともに、県小学校長会や高等学校長協会、その他関係諸団体・機関との連携に努めながら諸課題の解決を目指していきたいと考えています。

今後とも、活動期日・内容を変更せざるを得ない場合もあるでしょうが、会員の皆様の深いご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

専門部会活動の概要

● 行財政部会 ●

県小中学校長会の活動方針を踏まえ、互いに連携を密にしながら教育行政上の課題解決のために、組織的・継続的な対策活動を推進します。東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故から9年が経過しましたが、学校現場は復興へ向けて様々な課題を抱えています。その状況を把握し、課題解決に向けて対応するために、行財政に関する調査において特別調査を継続して実施します。

1 活動の重点

- 多様な教育活動に対応するための教育諸条件の整備・充実
- 教職員の待遇改善と福利厚生の上昇
- 当面する重要課題の調査研究と課題解決

2 調査研究活動

- (1) 令和2年度「教職員人事の反省」
 - (2) 調査Ⅰ：教職員配置等に関する調査
 - (3) 調査Ⅲ：教育施策の実施状況調査
 - (4) 特別調査：大震災・原発事故の影響に係る調査
- 以上の調査結果を分析し、課題を明確にして要望活動や教育懇談会、各支会の活動、学校経営に活用できる資料とします。

3 要望活動

県中学校長会の佐藤晃会長、県小学校長会の佐藤秀美会長を中心とする要望団を結成し、9月に要望活動を行います。要望先は、福島県人事委員会、福島県議会議員各会派等を予定しています。

4 教育懇談会

福島県教育庁関係者との懇談会を8月18日(火)に予定しています。行財政に関する調査をもとに、行政への働きかけをして、県の教育行政上の説明を受け、課題解決にあたります。

(行財政部会長 大越 一也)

● 研究部会 ●

まずはじめに昨年度来、目に見えないかつ予測困難な新型コロナウイルス感染症に対し、校長自らが主体的に向き合っており、「生きる力」を発揮した柔軟かつ前向きで粘り強い対応に敬意と感謝を表します。激しい変化の中でも、未来の社会の担い手である生徒を育てるために、立ち止まることなく共同研究者として歩みを進めて行きましょう。

さて、今年度の研究にあたっては次の点を確認の上、各支会での研究推進をお願いします。

1 共通理解に基づく共同研究の推進

今年度は、3年継続研究の2年目となります。「研究の手引き」を再度熟読するとともに、昨年度の研究の成果と課題の明確化と各支会での共有を図ります。

そこに加え、学校経営における新型コロナウイルス感染症のリスクマネジメントの視点や、校長としての具体的な対応等も踏まえた研究を推進します。

2 研究集録の編集、刊行

今年度の県研究協議会会津大会が中止となりましたので、各支会からの研究の成果と課題を年度末に研究集録として刊行し、研究大会に替

えることとします。次年度、まとめとなる3年次の研究推進に繋げます。

3 全日中、東北地区中と連携した研究の深化

今年度の東北地区中学校長会研究協議会青森大会、全日本中学校長会研究協議会和歌山大会については中止となりました。大会事務局からは大会誌刊行の情報が届いていますので、大会誌を通じて他都道府県の研究推進に係る情報等を収集し、各支会で活用していきます。

4 原子力発電所事故に関わり、学校教育が向き合った課題、対応等の記録の累積と発信

震災後10年を迎える今年度も、研究集録の中に「ふくしまの今」～双葉支会の現状～を掲載し記録の累積を行うとともに、本県のかかえる課題等を全会員で共有します。(研究部会長 目黒 満)

● 進路指導部会 ●

1 「生き抜く力」を育むキャリア教育の視点に立った進路指導の充実

- (1) 進路指導体制の改善・充実
 - ・進路指導の全体計画と校内体制の改善
 - ・新学習指導要領を見据えた進路指導の充実
- (2) 適正な進路指導推進のための資料収集、整備活用の工夫
 - ・情報の収集、整理、活用と進路相談の充実
 - ・特別支援学級等における進路指導の充実を図るための資料収集と実態把握

2 高等学校入学者選抜方法の改善に向けた高等学校や関係機関との連携

- (1) 高等学校との連携
 - ・福島県高等学校長協会、福島県私立高等学校協会との話し合い活動の推進
- (2) 高等学校入学者選抜方法の改善、提言活動の推進
 - ・県立高等学校入学者選抜事務調整会議での要望、意見等の資料作成
 - ・入学者選抜の内容と方法に関する情報提供と対応、意見集約と提言

3 適正な進路指導の充実のための諸調査と資料提供

- (1) 進路指導に関する諸問題の把握と資料提供
 - ・令和元年度末進路指導に関する調査の分析資料作成・提供
 - ・令和2年度末進路指導に関する調査
 - ・県下一円の進路動向調査の有効な活用
 - (2) 学級活動の時間の充実のための副読本編集
 - ・「中学生活と進路(県版)」の編集と活用
 - (3) 就職指導、専修学校・各種学校等の選択指導のための指導助言活動の推進
 - ・就職情報の収集と関係機関との連携強化
- (進路指導部会長 阿部 孝寿)

● 生徒指導部会 ●

本県中学校長会として、生徒指導の充実を図るための基盤づくりを強化するとともに共通理解に立ち、自己指導能力や規範意識を高める指導に努めます。特に、東日本大震災及び原子力発電所事故や新型コロナウイルス感染症に起因する生徒指導

上の課題、不登校生徒やいじめ問題への対応、インターネット利用の仕方等、今日の課題に対応しながら、生徒の心の問題や安全・安心に配慮した対策を講じます。

そのための組織の強化として、積極的に関係機関との連携を図ります。特に、小学校ならびに高等学校との連携を重視します。

1 自己指導能力の育成と規範意識の向上

- ・自己決定の場や自己存在感を与える教育活動の充実と共感的な人間関係の形成
- ・共通理解・実践に基づく一貫性ある学習・生活習慣づくりの推進と協働体制による指導

2 震災、原子力発電所事故等にかかわる課題と当面する諸課題の把握、その解決や未然防止に向けた組織的対応

- ・不登校、いじめ、反社会的行動及び虐待の実態把握と早期解決を目指した指導体制の確立
- ・SCやSSW等の専門スタッフのコーディネートを活用した「チーム学校」としての取組
- ・インターネット利用状況等の実態把握と情報モラル教育の一層の充実

3 小学校及び高等学校、家庭、地域、関係機関や関係団体との連携の強化

- ・他校種への理解の深化と効果的な情報の共有

- ・生徒指導主事協議会や学警連定例会等における研修の充実

4 生徒手帳の編集、刊行

(生徒指導部会長 渡辺 康弘)

● 広報部会 ●

広報部会は、広報誌「福島県中学校長会広報」を年2回発行し、ホームページの維持・管理を行い、本会及び関係団体等の活動状況や会員に役立つ新しい情報などを提供し、活用促進を呼びかけ、広報活動の充実に努めます。

1 本会及び関係団体等の活動や動向についての情報の提供・広報活動の充実

- (1) 本会の組織・運営、事業内容、活動状況の報告
- (2) 各支会の活動及び、本会活動への会員の意見や感想の紹介
- (3) 関係団体等の活動概要の報告
- (4) 広報紙の発行とホームページの運営、資料の整理

2 関係機関・団体等との連携・情報の提供

- (1) 関係機関からの情報把握と会員への早期周知
- (2) 諸活動の報告など

(広報部会長 佐藤 成紀)

第71回 全日本中学校長会WEB総会報告

第71回全日本中学校長会総会は、5月21日(木)から2日間の日程で、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催する予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染症による影響を考慮して日程を1日に短縮し、史上初のWEB上で総会が開催されることになりました。

当日の5月21日(木)は、佐藤晃会長(理事)及び代議員2名(土田宏副会長、佐藤浩哉事務局長)が参加し、本県の基地局である中学校長会事務局をインターネットで繋ぎ、動画と音声リアルタイムに共有しながら総会が進められました。午前中は、令和元年度の会務や決算報告、令和2年度の役員改正や活動方針、予算等の説明、第72回全日中研究協議会開催地等の議事について、審議が滞りなく行われました。

冒頭の会長挨拶では、川越豊彦氏から本会の目

的実現のための推進してきた3つの取組(①新学習指導要領の円滑な実施、②学校における働き方改革の推進、③「全日中新教育ビジョン」の策定)の成果を、全日中研究協議会和歌山大会で具体的な形で発表する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のためやむを得ず中止としたこと。新型コロナウイルスの対応は、学校再開後も長期に及ぶことが予想されるため、校長の役割がより一層重要になり、強いリーダーシップが必要であることを強調されました。

前会長の言葉を受けて、役員改正により承認された新会長の三田村裕氏(東京都八王子市立第七中学校長)からは、「前会長の意思を尊重し、本会の目的を達成するため全力を尽くす。」と、力強い抱負が述べられました。その後、次年度開催予定の第72回全日中研究協議会は静岡大会になることが確認され、午前の部を終了しました。

午後の部は、「当面する初等中等教育上の諸課題」と題して、丸山洋司氏(文部科学省初等中等教育局長)に代わって、滝波泰氏(教育課程課長)による講演及び滝波泰氏・森友浩史氏(財務課長)・大濱健志氏(児童生徒課長)の3名による文部科学省からの行政説明が行われました。講演や説明を行った方々からは、様々な視点から教育課題の現状と解決方法のヒントをいただき、改めて我が国の教育の在り方を考える機会となりました。

今回は、感染リスクを避けるためWEB上での特例的な総会となりましたが、今後も災害等の発生が予想されるため、新たな開催方法を示唆した貴重な総会であったと言えるかもしれません。



支会情報と特色ある経営

福島

福島支会の活動



福島支会長 土田 宏
(福島市立福島第二中学校)

福島支会は、福島市、川俣町の25校(公立中学校22、附属中学校1校、市立特別支援学校1校、附属特別支

援学校1校)で組織しています。

今年度は、新型コロナウイルスの影響により、計画の変更や修正を余儀なくされており、先の見通せない状況にありますが、以下の活動を充実させ、教育の充実・発展に向け取り組んでまいります。

- 1 定例会(年7回)では、各専門部の活動の確認及び情報・意見交換を行います。特に今年度は、コロナ感染症に係る各校の課題を共有化し、対応を協議する重要な機会となります。
- 2 異校種間の連携推進については、小中学校長協議会や県北中学校高等学校長連絡協議会等の組織を活用し、進路指導や生徒指導等について意見交換を行うとともに、ICT教育など今後の教育の在り方について共通理解を図ります。
- 3 研修会では、校長会の先輩を講師に招き、これからの学校経営と校長の役割についてご教示をいただくとともに、人材育成の観点から管理職を目指した教員研修会を実施しています。
- 4 研究推進に関しては、県の研究主題に基づき、第4小主題(2年次)のまとめの実践を積み重ねるとともに、次期主題へ向けても役割分担して取り組み、内容の共有化を図っています。

校長会としては、9年前の東日本大震災と原発事故の混乱から、教育復興へ向け歩んできた実績があります。コロナ禍の状況にあって様々な課題はありますが、「凜と生きる～私たちの責務～」を今一度思い起こし、充実した教育が実践できるよう、組織を最大限に生かした活動を推進してまいります。

《学校紹介》

スポーツによる生きる力

福島市立大鳥中学校

本校は奥州三名湯にも数えられる豊かな湯量の温泉、「いで湯の里」飯坂温泉街の高台にある学校で、全校生徒140名が在籍しています。

本校の教育目標である「夢・元気・笑顔～心あわせて」の具現化に向けて、地域や家庭と連携を図り、これまでの伝統を受け継ぎながら、さらに躍進できるよう教育活動を行っております。

本校がオリンピック・パラリンピック教育研究推進校の指定を受けてから、4年目となりました。これまで、オリンピックによる講演会や実技講習会、シッティングバレーやボッチャなどのスポーツ体験、さらにはスイス柔道連盟との交流活動など、様々な事業を展開し、スポーツの意義や価値などへの理解・関心を高めました。

また、元キャビンアテンダントによる講演会を開催したり、社会福祉協議会による福祉学習と関連を図ったりしたことで、おもてなしや障がいへの理解にもつなげてきました。

昨年度は、北京オリンピック女子バレーボール日本代表選手 櫻井由香氏による「スポーツによる生きる力」と題した講演会を開催しました。講師のスポーツ経験だけでなく、スポーツで学んだことや感謝の気持ちの大切さに触れた内容を聞くことで、スポーツのすばらしさ、スポーツによる人生の豊かさについて改めて考えるよい機会となりました。

今年度は、「する・みる・ささえる」スポーツの「ささえる」という視点で、オリンピック・パラリンピックを考えることで、自己の生活を振り返りながら、レガシーとは何か、何を残すことができるのかを、生徒たちに求めていきたいと思えます。



元オリンピック選手の講演「スポーツによる生きる力」
(校長 鈴木 豊)

石川 石川支会の活動



石川支会長 塩田 正信
(石川町立石川中学校)

石川支会は、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町の5町村の会員で組織されています。今年度は、玉川村の2つの中学校が統合され、玉川村立玉川中学校が誕生しました。これにより、地区内の学校数は、昨年度より1校減の5校になりました。

支会会員数では今年もまた、県内で最も小さな組織となるわけですが、小さいからこそそのスモールメリットを最大限に生かし、“小さいからこそあったかい”会員相互の連携と一体感を基盤に、さまざまな課題の解決に、5人の会員で知恵を絞りながら対応していきたいと考えています。

次に、本支会ならではの特色ある活動を紹介いたします。

1 「校長会、教頭会合同研修会」

毎年夏休みに各学校の校長、教頭が一堂に会し、研修会を行います。今年度は、8月19日(水)に予定しています。年に一度ではありますが、校長・教頭が合同で研修を行うことは、研修内容はもちろんのこと、管理職としての共通理解を図り、協働態勢で学校経営を行うという意識の向上や連帯感の高揚という面でも大きな意義を感じています。また、各町村各1校の中学校という地区独特の特徴から、同一歩調や同一見解が求められることも多く、地区中学校の管理職が共通理解を深める場としても本研修会は重要であると考えています。

2 「中学2年生対象の教育講演会」

この講演会は、地区全町村の中学2年生を対象に毎年11月に実施しています。石川青年会議所の援助を頂き、例年著名な講師を招聘し、キャリア教育の一環として好評を得ています。今年も秋、11月に予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況が危惧されるところです。予定通りに実施ができ、生徒の成長に寄与する機会となることを校長会として願っているところです。

《学校紹介》

「人と人との心を繋ぐ」学校づくり

玉川村立玉川中学校

本校は、福島空港のある玉川村に、この春統合により新設された生徒数191名の学校です。

これまで玉川村には、73年の歴史をもつ泉中学校と須釜中学校がありましたが、昨年度末をもってその長きにわたる歴史に幕を閉じ、新設玉川中学校となりました。両校ともに「地域の宝」と呼ぶにふさわしい存在の学校でした。そこで、玉川中学校では、それぞれの特色ある中学校の生徒たち、保護者、地域の皆様との新しい「繋がりをつくる」ことから始めることにしました。この取組は、統合の準備段階から始まり、2つの中学校の合同学活や小学校との交流授業などを積極的に行いました。日常の授業においても、「対話的」な活動を積極的に取り入れ、「多面的・多角的な思考力・判断力」を養うことに努力することで、「人と人とのかかわり」を大切にする心を育てることができたのではないかと思います。中でも、村の2つの小学校と2つの中学校で行った4校合同の集会活動では、中学校の生徒代表が、計画から当日の進行までを一切自分たちで行い、村内4校の児童生徒の「繋がり」を作ることができました。

また、新しい学校の校章についても、美術の授業を中心として、それぞれの中学校で生徒たちがデザインを考え、持ち寄り、話し合い、プレゼンをしながら自分たちで作りました。その過程も地域の皆様に逐次公表することで、「自分たちで作った」という意識が高まったようでした。

現在、新型コロナウイルスによりさまざまな活動が制限されていますが、「できないことを嘆くよりも、工夫する面白さを味わう」という考えに立って、「伝えること」「かかわること」「繋がること」を日常のテーマとして取り組んでいます。



4校合同集会の様子

(校長 岡崎 寛人)

南会津

南会津支会の活動

南会津支会長 我妻雄比古
(南会津町立田島中学校長)



南会津支会は、下郷町、南会津町、檜枝岐村、只見町の4つの町村からなり、神奈川県とほぼ同じ面積を有し、7校の中学校長で組織されています。

少子化はどこでも叫ばれていますが、本支会においても年々減少傾向にあります。

今年度は、行政機関より地元出身の校長1名をお迎えし、新たな風を吹き込んでいただいております。毎年少しずつ地元出身の校長が増えてきています。新型コロナウイルス感染症拡大による影響により、下記開催の予定変更等がありますが、連携して課題解決にあたっています。

1 南会津地区小・中学校協議会の活動

県校長会の教育関係団体と緊密に連携しながら「南会津がつむぐ南会津ならではの教育」を創造し、郷土を愛し、夢や希望をもってともにたくましく生きる子どもの育成を目指し、活動しています。

(1) 小中学校長協議会(年6回)

小中学校数が少なく小規模校が多いため、前半の協議会は小中学校合同で開催し、後半は校種別に開催しています。新任の校長が多いこともあり、経験や年齢の差を様々な面で情報交換や連絡を密に取り合うことにより解消していこうと話合っています。中学校長会では、リモート会議を取り入れ、新型コロナウイルス感染症対策についての情報共有と、課題解決に向けて協議しています。

(2) 教育実務研修会

南会津の教育を担う教員の資質向上と、管理職を目指す教員の資質向上を目的として、全体研修と各方部ごとに支部研修を実施しています。また、教員採用二次試験に向けた学習会を行い教員の養成に努めています。

《学校紹介》

ESDを通じた小中高の連携

只見町立只見中学校

只見町は日本有数の豪雪地域です。厳しくも豊かな自然と、それに共生する文化によりユネスコエコパークに認定され、町内の小中学校はユネスコスクールとしてESDを学校教育の柱にしてきました。多くの学校でも地域学習には取り組んでいると思いますが、さらにグローバルな視点を持つ子どもたちを育てていくために、海洋教育の視点を付加したESDへと発展させています。

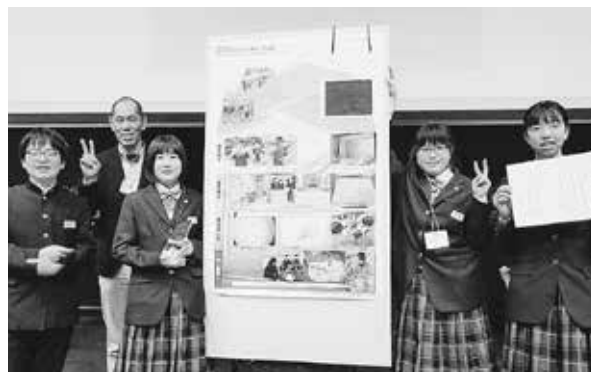
(東京大学大学院海洋教育センターとの提携)

小学校では「只見学」として地域を学び、ESDの素地は十分にできています。そこで中学校では大学や地域の協力を得て、SDGsを意識した実践を行っており、その流れを紹介します。

- 1 海を知る…海釣りと海辺のゴミ拾い
 - 2 課題を持つ…キリバス温暖化講演会
 - 3 海を感じる…ウニの飼育(お茶水女子大支援)
 - 4 海へ恩返し…海洋ゴミ削減(新聞レジ袋)
 - 5 発信…郡英弁、町少年の主張、全国サミット
- 学校行事、総合的な学習の時間、社会科、理科などカリキュラムマネジメントしています。その中でも海洋ゴミ(プラゴミ)削減のための新聞レジ袋の実践は新聞でも報道され、県内から激励の手紙も届いています。

本校の教育目標は「考える生徒」です。グローバルな視点を持ち、課題解決のために熟議してアイデアを出し合い、ローカルに実践する生徒は頼もしく、まさにESDの目指すところです。

高校改革により只見高校が地域協働推進校として取り組む「グローバルリーダー」の育成も、小中高の連携がさらに充実してくると楽しみです。



全国海洋教育サミット優秀賞受賞(東京大学安田講堂 R2.2.15)

(校長 横山 泰久)

双葉

双葉支会の活動



双葉支会長 早川 良一
(橋葉町立橋葉中学校)

皆様には、震災及び原発事故の被害を受けた多くの学校へ継続的なご支援を賜り、衷心より感謝申し上げます。双葉支会は、昨年度、県立ふたば未来学園中学校をお迎えするも、浪江町立浪江中学校、浪江東中学校、津島中学校の3校が休校、震災からまもなく10年を迎える今でも双葉町はいわき市、大熊町は会津若松市、浪江町の小学校の一部は二本松市、富岡町の一部は三春町に移転したまま仮設校舎や借用施設で教育活動を行っています。現在、8町村10校、9名の会員で組織され、県内各地に点在しながらも「双葉はひとつ」と強い結束のもと、相互に情報共有・連携を図り、教育の復興・推進を目指して活動しています。

双葉支会の主な活動は、中学校独自で行う年4回の研修会、小中連絡協議会研修会が年2回、相馬支会与相双高等学校長会と連携した相双地区中高連絡協議会を年1回開催して、情報交換や地区の課題解決に向けた研修を深めています。また、7年間活動を中止していた中学校教育研究会を平成30年度より段階的に再開し、双葉支部英語弁論大会、双葉郡中学校音楽祭第3部創作・造形作品秀作審査会も軌道に乗ってきたところです。

今年度は当初より新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、研修会や大会等が中止となり、水を差された状態です。小規模校の集団ではありますが、校長の判断は他と変わらず、メールやオンライン会議等を活用して情報共有を図り、早め早めの対策を講じているところです。

復興は確実に前進しておりますが、依然として生徒数は少なく心身の支援も継続して行わなければなりません。だからこそ校長会での研修は、双葉を知り双葉の子どもを育てる上で必要不可欠なものと考えます。

今後もご支援ご指導をよろしくお願いいたします。

《学校紹介》

極少人数を最大限に生かして

大熊町立大熊中学校

東日本大震災及び東京電力福島第一原発事故に伴い、避難先の会津若松市で教育活動が再開されてから10年目を迎えました。新天地での生活再建や近隣校への転出などにより、本校に通う生徒の数は年々減少し、現在は、3年生3名が学校生活を送っています。

本校では、昨年度より対話的な学びを実現させるための授業改善に取り組んでいます。今年度は、極少人数という特性を生かしながら、個別最適化された学びを意識して授業を展開し、生徒一人一人の自己内対話を活性化させたいと考えています。

そのための手立てとして、本校では個人カルテを活用します。教員は、生徒一人一人に対して、担当する教科の視点から身に付けさせたい資質や能力を明らかにし、指導の成果や課題等の情報をカルテに入力します。入力された情報を教員同士が共有することにより、他の教科における生徒の状況をふまえた指導が可能になり、横の連携も強化されます。個人カルテを活用して生徒一人一人に適した指導を実現すれば、学ぶことを楽しむ姿や考えを広げ深める姿がさらに増えるのではないかと期待しています。

また、本校では、経済産業省の協力を得て、早ければ7月からICTを活用したタブレット端末による新学習プログラムを導入します。教育とテクノロジーを融合させたEdTech(エドテック)推進の一環であり、数学科と英語科において、AI(人工知能)機能を備えた学習ソフトを使用し、生徒一人一人の進度や習熟度に応じた授業を実施します。新学習プログラムが個別最適化された学びを実現し、自己内対話を活性化させる学習ツールになることを願っています。



ジグソー学習による自己内対話の活性化【国語科】

(校長 新井田克生)

新会員紹介

支会	氏名	校名	支会	氏名	校名	支会	氏名	校名
福島	平野 貴浩	吾妻	田村	吉田 圭輔	常葉	北会津	津金 光彦	東(猪苗代)
伊達	佐藤 力夫	松陽	田村	金子 伸之	小野	耶麻	植村 信	北塩原一
安達	三津間 勝彦	本宮二	東西らかわ	菅野 靖	五箇	両沼	小関 英紀	柳津学園
安達	日下部 準一	白沢	東西らかわ	小野里 高広	東(白河)	いわき	佐川 一夫	藤間
郡山	古川 浩	片平	東西らかわ	櫻田 渉	西郷二	いわき	亀田 和宏	川前
郡山	佐藤 信也	熱海	東西らかわ	高橋 英二	矢祭	いわき	嶺岸 知弘	入遠野
岩瀬	渡部 幹雄	湯本	東西らかわ	相馬 慶二	鮫川	いわき	愛川 政弘	田人
石川	舟木 武志	浅川	北会津	伊達 東	湊			

新会員の声

限られた条件の中で

伊達市立松陽中学校 佐藤 力夫

今年度は、これまでに経験したことのない状況での新学期スタートになり、着任以降いろいろな対応に追われ、悩む日々でした。しかし、このような中でも心強かったのは、本校職員のまとまりの強さがあったこと、そして何より前任の校長先生や伊達支会の先輩の校長先生方と何でも相談させていただけたこと、伊達市教育委員会様からご指導をいただきながら対応できたことです。

「生徒が生き生きと輝やいている学校～様々な活動を通して～」

これは私が本校に着任して掲げた目指す学校像です。この目指す学校像について、生徒へは「どの分野、どんな場面、何でもいい。自分を信じ、自分の持つ力を精一杯発揮して、輝きのある学校生活を送ってほしい。」また、先生方には「目指す学校像実現のために、生徒の個性を生かし、伸ばし、力を発揮できる機会を多くつくってほしい。」と話しました。

生徒は現在「新しい生活様式」を取り入れるなど、新型コロナウイルス感染症に対応した学校生活を送っています。いろいろな面で今までより制限がある学校生活になりますが、限られた条件の中で生徒一人一人が輝きのある学校生活を送れるようにするためにはどうすればよいのか。私自身の悩みは今後も尽きないと思います。

生徒が卒業する時、また、卒業後に人生を振り返った時に「松陽中学校で学べてよかった。」と思うことができるよう、今後も先輩の校長先生方からご指導をいただきながら、学校経営に励んでいきたいと思っています。

新任校長コロナ禍対応中に思う

白河市立東中学校 小野里高広

4月1日を冷や汗をかきながら何とか無事にやり過ごしホッとしたのも束の間、2日目からは新型コロナウイルス感染症対策のため、校長として何度も責任ある決断をしなければならず、しかも先が見えずに焦燥とした日々が続きました。この間、校長として、生徒のみならず教職員の命と健康をも守る立場にあるのだということを感じました。先輩の校長先生方も、この神経を磨り減らす重い決断を何度も経てきているのだろうと思うと改めて尊敬の念を抱かざるを得ません。

また、この新型コロナウイルス感染症対策のため何度も校長会議が開かれていますが、先輩諸氏はいつも新しい情報を持っていますし、学校の教育活動の在り方についても常に私より1ヶ月も2ヶ月も先を見て話をされていることには舌を巻きます。さらに、あらゆる条件を勘案しながら教育活動がどうあるべきかについて熱心に語る姿勢からは、学校経営者としての高い見識と自覚に裏打ちされた懐の深さに感心させられればなしです。

もう一つ。これでいいのかと不安を払拭しきれないまま新型コロナウイルス感染症対策の決断をする度に、改めて学校教育の重要性を身をもって感じているところです。情報を的確に読み取る読解力、データやグラフが示すことを理解しその先を読み判断する力、最終的にそれらに基づき表現し行動する力を頼りに、信じるしかありません。予測困難な時代に生きるとされる子ども達に身に付けることを求められている「最適解」を見出す力を、まず教員としての我々が、「今こそ範を示せ」と試されているような気がしてなりません。市教育長様の「教育委員会は、校長に協力し助けしていくところだから」というお言葉が日々の支えです。

守（「教育」）

私が教師になって間もない頃、先輩教師から「教育とは？」と問われ、「しっかり教えて、待つてあげることなのだ」と教えられました。「教」は「教え、指導すること」、「育」は「はぐくむ」で、語源は「は（羽）」+「くくむ（含む）」、親鳥がひなを羽で包んで育てるといふ意だと。

今、この社会は、グローバル化や情報化が進展し、めまぐるしく変化し続けています。当然、子供たちを取り巻く環境も変化し、さまざまな課題があるのも事実であり現実です。子供たち・若者の自尊意識の低下、コミュニケーション能力の低下、体力や運動能力の低下、生活習慣や食生活の乱れ、性や薬物のモラル低下、SNS問題、現在は新型コロナウイルス感染症等々……。今後も社会の変化は恐ろしいスピードで加速していくのは確実で、その変化を予測することもまた困難な時代に突入するのです。そんな時代を生き抜く子供たちの資質・能力を育成することが現在の教育現場、いや社会全体の最大の課題であろうかと思ひます。そのためには、学校関係者はもとより、家庭や地域の方々も含め、さまざまな立場から生徒や学校に関わることこそ、すべての大人に期待される役割であると考へます。

「関わり合いながら、見守り、成長を待つ」とはいえ、感染症の影響が続く間は多くの人と関わることを避けなければならず、戸惑う毎日です。

破（「改革」）

「働き方改革」が目指しているものについて考へました。市（県、国）にはさまざまな施策があり、予算が確保されています。その趣旨を理解し、計画を立て実行したとしても、所詮他力本願的な考へでは、十分な教育効果は期待できないのが事実です。では、どうすればよいのでしょうか。アイデアを出し合い、学校のみならず関係機関も交え英知を結集し、「チームとしての学校」の考へを

取り入れて学校経営をします。しかし、現場では、災害や事件等さまざまな問題が発生し、困難が生じ、立ち止まったり、行き詰まったりしています。そんな時は、誠意をもって地道に汗をかきます。何かあったらすぐ行動する、声かけあつて動き出す、意見を率直に言い合い、子供たちも、われわれ教師も自分さえ良ければとか、自分の学級・学年だけとか、本校が良ければという偏見を極力少なくすること。偏った負担や不平・不満の中では「働き方改革」は実現しません。

「組織を生かした改革」を推進しつつ、日常の忙しさと戦っています。

離（「学校」）

大村はま先生の言葉（「優劣のかなたに」）、
「— 前略 — 学びひたり 教えひたっているそれは優劣のかなた。ほんとうに持っているもの授かっているものを出し切つて、打ち込んで学びひたり 教えひたっている そういう世界。優劣を論じあい 気にしあう世界ではない。今はできるできないを 気にしすぎて、持っているもの 授かっているもの 出し切れていないのではないか。成績をつけなければ、合格者をきめなければ、それはそうなのだ。今の日本では 教師も子どもも 力のかぎりやっていないのだ やらせていないのだ。優劣のなかで 教師も子どもも あえいでいる。学びひたり 教えひたろう 優劣のかなたで。」

学校は、子供たちが、ただ単に学ぶ場ではなく、全身全霊を集中して学ぶところです。そして、教師はただ単に教えるのではなく、力の限りを尽くしてひたすら教えなければなりません。「できる、できない」とか「優か、劣か」は、全く問題ではないということなのでしょう。

われわれ校長は、次代を担う子供たちのために信念を持って「学校」をつくつていかねばなりません。実績でもなく、評価でもなく、校長はひたすら学校をつくつていくのです。

随想



福島県中学校長会副会長
橋谷田 聡
(いわき市立小名浜第一中学校)

規矩作法を守り尽くして破るとも
離るとても本を忘るな

（一財）福島県教育会館 事業ご案内

福島県教育会館の下記事業につきまして、ご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。

- 夏休みの友 ●福島県立高校入試問題集 ●福島県書きぞめ展 ●教育関係者名簿 ◆大ホール・貸し会議室(教育関係者は半額)
- 福島市上浜町10-38 office@kyouikukaikan.jp TEL 024-523-0206 FAX 024-523-0208